



メディア やっぱい 雨漏いだった！！



屋根面の不良による雨漏りを発見。メディアコスモス東屋根の防水テープを修理中。(写真・市民参画部)

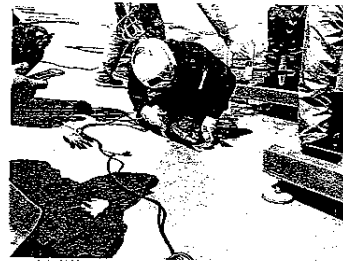
瑕疵担保契約期間 4 年を延長 10 年へ業者は印をつけ！

昨年末から本年 3 月にかけて 4 回も落水（雨漏り）のあったメディアについて、原因判明したとの電話があったのは 4 月 3 日でした。「3 月 28 日調査で屋根鋼板のつなぎ目テープの溶着不良を発見。不良箇所へ水をまいたら雨漏り確認。ウレタン補修後の散水（30 日）では雨漏り無し。雨天（31 日）雨漏りなし。」と、報告を頂いた。

文教委員会の参考人質疑で「原因（落水）は、結露です。雨漏りと言うなら、場所を示してほしい。」と伊藤設計は豪語していました。雨漏りの瑕疵担保期間は始めから 10 年です。しかし、雨漏りではない落水も心配して「瑕疵担保契約の 10 年への改定」を岐阜市が要求して約半年が過ぎようとしています。これに判をつかない業者の不誠実を許してよいのでしょうか。「完成」とされて足掛け 3 年、錆コッコです。（裏面へつづく）

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

(おもて面からつづき)



最終支払い27億円了承したのは 細江市長！

3月議会(24日)反対討論 松原のりかず メディアコスモス雨漏り問題で

文教委員会で2回も、設計業者、施工業者の出席を要請し、質疑をして来ましたが、施設「完成」とされた時から足掛け3年経過し、4年目の瑕疵担保期末が迫っていますが、「落水」は止まりません。3月議会会期中にも「落水」の報告がされています。

瑕疵担保期間10年への改定方針が、文教委員会でも議論され文書化され、業者へ渡されたとの事ですが、合意の無いまま、返答の無いまま、半年になろうとしています。業者の態度は誠意ある対応とは思えません。×切期日を明記して要求すべきです。確認文書化、録音など証拠の確保を行なうべきです。

また、雨漏り現象により、岐阜市役所の建築技術水準を指摘されています。まちづくり部も、契約に関しては行政部も、市民参画部の支援を強化すべきです。雨漏りを確認しながら、最終支払い27億円に了承した市長の責任は重いと改めて指摘いたします。

(松原のりかず討論より)

仮設の乾燥機が常設に成ったことを「当初の設計ミス」ではと委員会で指摘されて、「設計ミスではないです」と豪語した伊藤設計。この設計者を選んだのも市長です。

市長さん「市民の財産守る」のにも もっと 努力してほしい

市民から「市長は27億円(最終支払い分)を市民参画部技術最高責任者と共同して払え」と監査請求されました。雨漏りを確認しながら「完成」とした責任者として、市長と技術責任者の2人が監査請求対象に。メディア「完成」後、彼の人は市長により検査室長に昇格され、幾度か議会での質問対象にも。「夏型結露」と強調されていた彼の人は、この春、職を離れ再就職。待っていたかのように、雨漏り補修が新聞発表(4月3日)。外部の学者を入れての検討会設置も、監査請求で「市長は27億円払え」と要求されてからの設置です。「未完成品」のお蔭で、決められない市政が続いています。



松原のりかず
☎058-253-2500